

段階	学習活動	指導上の留意点
導入 【5分】	<p>○5人組の班を作る。</p> <p>○生徒会、バレー部、バスケット部、卓球部、フットサル部の役割分担を決める。</p> <p>【ワークシートを配布】</p>	<p>★クラスの人数によっては、生徒会役を抜いて、4人組の班にしてもよい。</p> <p>★解説中では、文章の流れの便宜上、授業の途中で役割分担を行っているが、実際の授業では、グループ分けと同時に役割分担も行ってしまうのがよいであろう。</p>
展開(1) 【10分】	<p>○物語・登場人物を朗読する</p> <p>○フットサル部の新設により、体育館の使い方を巡ってクラブ間で紛争が起きたことを理解する (WS1①)。</p> <p>○紛争解決の手続としてのルール作り＝手続を尽くした話し合いの結果、合意がまとまれば、対立が解消されて、紛争が解決することを理解する (WS1②)。</p> <p>○関係者全員が手続に参加して、十分に話し合うことが重要であることに気づく。</p>	<p>★体育館の見取り図もよく頭にいれさせること。</p> <p>★紛争解決手続としての「対立と合意」である。</p> <p>★このとき、法がなかったらどうなるかを具体的に考えさせることで、「法」に対する否定的認識を肯定的認識（「法」があることで、幸福・豊かに暮らせること）へと転換させる。</p> <p>★また、「作る」という点を強調して、「法」に対する静態的・受動的認識を動態的・主体的認識（「法」は自ら作り、作り変えることができること）へと転換させる。</p> <p>★紛争解決手続における「公正」＝手続的正義。</p>
展開(2) 【10分】		<p>★いきなりロールプレイを行うと、うまく参加できない生徒が出てくるので、一人で考えを整理するための時間をとることは重要。</p> <p>★その上で、2時間授業で実施する等時間が許すのであれば、この段階で一</p>

	<p>○紛争解決の技能として、問題の状況を整理する (WS1 ③)。</p> <p>○自分の担当するクラブがどの時間、どの場所を使いたいのか、理由とともに考える (WS2)。</p>	<p>度、例えば、バレー部ならバレー部役の生徒全員が集まるというように、同じ役割同士で集まって作戦会議をする時間をとるとよい。ロールプレイ時の発言が苦手な生徒へのフォローになる。</p> <p>★最低限、自分の担当するクラブについては強く出られる点と出られない点をまとめさせる。そのうえで、時間に余裕があれば、他のクラブについてもまとめさせる。</p> <p>★生徒は各クラブの代表者だから、十分な練習時間がとれないと他の部員が残念に思うことを強調して、ロールプレイでしっかり主張するように仕向ける。</p>
<p>展開(3) 【20分】</p>	<p>○各役割を持つ生徒を1名ずつ集めた班を作って、どのクラブが、どの時間、どの場所を使うか、紛争解決の技能としての「よく聴き、よく伝える」という技能を使いこなしながら、話し合う (WS3)。</p> <p>○班ごとに討論の結果合意したルールと理由・ポイントを発表する。</p> <p>○紛争解決の基準として、効率と公正 (平等) について理解する。</p>	<p>★各班に各役割を1名ずつ配置することで、傍観者をなくして、生徒に積極的な参加をさせることができる。</p> <p>★時間がなければ、机間巡回の結果を踏まえて、教員の側で発表する班を指名する。</p> <p>★理由については、箇条書きで答えさせるとよい。</p> <p>★生徒の発表の中から、教員の側で、「効率と公正」に関してポイントとなる回答を指摘し、よいルール、すなわち効率的なルールになっているか、本当に公正 (平等) なルールになっているかを問い直す。</p> <p>★適当な答えがない場合に備えて、教員の側で、あらかじめ、解説中の生徒会</p>

		<p>案を用意しておいて、先生が考えたこの生徒会案はどうだろうという形で生徒に問いかけするのも有用である。</p> <p>★「効率」とは、時間や空間といった有限な資源についての配分が無駄のないようになっていることをいう。</p> <p>★解説文にあるように、もし1時間ごとに使用するクラブが変わるようなルールを作っている班があれば、スムーズに「効率」の議論を展開できる。また、バレー部またはバスケット部が前半分・後半分ともに使用するようルールを作っている班があれば、少なくとも試合形式の練習をする限りにおいては4面全部のコートを使用することはないという点で「効率」の議論を展開できると思われる。さらに、デッドスペースになり易い隅のスペースについても「効率」の議論は展開しやすいであろう。</p> <p>★「平等」とは、同じものは同じように扱い、違うものはその違いの程度に応じて違うように扱うことをいう。具体的には、必要性、貢献度、能力の違いに応じて違う扱いをすることである。</p> <p>★解説文にあるように、フットサルが競技の性質上試合を行うのに広いスペースを必要とする点をとっかかりにすれば、「平等」の議論をスムーズに展開できるはずである。</p> <p>★2時間授業で実施する等時間が許すのであれば、この段階まで進んだ後に、再度、班ごとにわかれて「効率と公正(平等)」を意識したルールを作らせると学習効果が高まる。</p>
まとめ	○ワークシートまとめに	★ルールが必要なのは、幸福・豊かに暮

<p>【5分】</p>	<p>本時の学習事項を記入してまとめる（WS まとめ）。</p>	<p>らすため ①）。</p> <p>★ルールは、関係者全員が参加して、十分に話し合うという手続で決めるとよい。「対立」状態は、「手続を尽くした公正な話し合いによる合意」が成立すれば解消されて、「紛争の解決」につながる ②）。</p> <p>★紛争解決の基準（内容）としては、「効率」的かつ「公正（平等）」なルールがよい ③）</p> <p>★「効率」とは、時間や空間という有限な資源についての配分が無駄のないようになっていること ④）。</p> <p>★「平等」とは、同じものは同じように扱い、違うものはその違いの程度に応じて違うように扱うこと ⑤）。</p>
--------------------	----------------------------------	---